広告

日本リハビリテーション発祥地記念館 設置趣旨

九州リハビリテーション大学校記念館

～今、二十一世紀にスタート～
ここは日本リハビリテーション発祥地・まほろば

開設記念式典
期日：平成 29年 4月22日（土）

正門・「一心真澄坂」

この坂は日本リハビリ発祥地　足立山に続く道
一心に再起を期して上る坂　リハを求めて上る山
ここは「一心真澄坂」　この坂を越えて妙見・無窮の光

設置趣旨

日本リハビリテーション発祥地記念館館長
九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学
学長　室井廣一

東筑紫学園は理学療法学科、作業療法学科両科併設の養成校としては我が国で二番目に古い伝統を有する労働福祉事業団設立の九州リハビリテーション大学校を平成十六年に専門学校として継承し、平成二十三年に九州栄養福祉大学のリハビリテーション学部、のち大学院へと発展充実させてきた。本学部は両学科併設の養成校として今日では日本で一番古い歴史的伝統を継承してきている。

九州リハビリテーション大学校は国の労働福祉事業団によって昭和四十一年に、九州労災病院の隣接地に創られた。この昭和二十四年旧労働省設立の九州労災病院の隣には「小倉傷痍者訓練所」（同省が病院と共に設立）があり、後、その跡地に九州リハビリテーション大学校が創られたということである。昭和二十四年二月創設の九州労災病院・小倉傷痍者訓練所は元々日本製鉄株式会社八幡製鉄所病院曽根療養所（以下略する）のあった所に創られている。要するに、終戦後労働災害保険制度が成立し、九州労災病院設立のために労働省が日本製鉄から譲り受けたということである。この時、日本製鉄八幡製鉄所病院の院長・内藤三郎は初代の九州労災病院長に就任している。正確に言えば、内藤は昭和二十三年九月に初代院長並びに小倉傷痍者訓練所の所長に任ぜられ開院事務を開始している。当時の様々な資料を見てみると、この内藤院長が製鉄病院曽根療養所の時から相当の努力をされて労働省と共に九州労災病院設立に関わったようである。内藤院長は九州大学医学部（整形外科）出身で、九州労災病院の創設・発展には同大医学部人脈が大きく貢献している。二代目院長には九大医学部の天児民和教授が就任している。

昭和三十二年、労災病院の経営は労働福祉事業団に引き継がれる。昭和四十年六月「理学療法士及び作業療法士法」が制定されリハビリの国家資格制度が出来上がり、同四十一年四月「小倉傷痍者訓練所」跡地に九州リハビリテーション大学校が開校する。前者は後者へと新しく変わっていったということであろう。ちなみに初代の学校長は安藤正孝・第三代九州労災病院長（九大医学部）で、本学が継承するまで歴代学校長は同病院長の兼務職となっている。最後の学校長は許斐康熙院長（同大医学部）であった。

昭和三十年代に「リハビリテーションの陽は西から昇る」と言われたのは、このような日本製鉄曽根療養所（疎開療養所）、九州労災病院・小倉傷痍者訓練所、門司労災病院（九州労災病院の分院として昭和三十年五月開院、後三十二年門司労災病院と改称、この病院も内藤三郎が初代院長）、九州リハ大創設等という一連の流れに関係している。まだ理学療法士・作業療法士の資格制度のない時代から、北九州市の足立山の麓で、わが国のリハビリテーション医療の先駆的試みが始まったのである。

北九州市は言うまでもなく、我が国の近代化、国際化、工業化に大きく貢献した都市である。百万都市・北九州市は近代化の過程で石炭の産出、官営八幡製鉄所、築港等でかつては四大工業地帯のひとつとも呼ばれ近代産業の牽引車的役割を果たしてきた。この地は、本邦近代化の最前線の役割を果たしてきたが、一方でもう一つの歴史的役割、すなわち日本リハビリ発祥揺籃の地としての役割も担って来た。日本の労災病院の基幹病院としての九州労災病院・小倉傷痍者訓練所や後には門司労災病院、九州リハ大、そして又産業医科大学がこの地に設立され、また北九州市の近接地に筑豊労災病院、飯塚の総合せき損センターなどが創られたのはそういう歴史性に起因しよう。その歴史性が今日のリハビリテーション医療の基盤を構築することになった。この都市発達の歴史的体験はこれからの少子高齢化社会の生活習慣病予防、介護予防、予防リハ、食育・食指導、各種社会福祉施設収容者のリハビリ、自発的社会参加等という深刻な問題の解決に大きな力として再活用されていかなければなるまい。

ではなぜ北九州市の「この地」が戦後のリハビリの揺籃の地に選ばれたのか。この足立山麓は温泉的効能を持つ冷泉が湧き陽光に恵まれ猪が駆け回るすそ野が広がり海を見下ろす風光明媚な天恵の地で、歴史上有名な和気清麻呂公が足を治したという伝説的な地である。和気公は後に平安京という都造りをする大きな荒魂・元気をこの地で獲得したのである。山の名前も文字通り足が立った山だから足立山である。我が国で足を立たせる名称の山はこの山のみである。古代リハビリ発祥の地とも言えよう。和気公のみならずこの地は古代社会から人間復興の地、元気回復の地として知られていたのである。このあたりのところを、『小倉傷痍者訓練所案内』はその伝説に触れながら「この由緒の地に皆さんの治療、厚生施設として九州労災病院並に小倉傷痍者訓練所が設けられるに至つたことは唯偶然とばかりではかたずけられない何か深い因縁があるように思はれてならない」と「『足立』の由來」に記している。

この地を選んだ人が誰なのか、この「由来」を記した人は誰なのかは今後の研究に俟つとして、おそらくは前述の「案内」にもあるようにこういう歴史的由来を踏まえて、当時の病院や訓練所の創設にあたった旧労働省や八幡製鉄の曽根療養所から九州労災病院の初代院長となる内藤三郎・九州大学医学部の医療人脈が関わっての選択であったろう。この足立山麓はそういう古代社会からの今日に続くリハビリの場所だったのである。我が国リハビリのまほろば・原郷なのである。

百万都市・北九州市は近代化の過程で大きな貢献をした工業都市であるが、実はそれだけでなくリハビリ発祥の地ともいうべき「もう一つの顔」を持っているのである。そしてこの地から、リハビリ界の幾多のパイオニア的人材が巣立ち、今日の斯界の指導者になっている事などを考えれば、この地は日本リハビリの揺籃の地・まほろばであり、聖地といっても決して過言ではない。「リハビリテーションの陽は西から昇る」と前述したが、もともと陽は東から昇るのに何故西からなのかということの意味が了解されるであろう。言うまでもなく西から昇るようになったのは近代工業都市の事情・歴史的由来・大自然の環境条件もさることながらこの歴史的課題に真剣に取り組んだ医療人のひたむきな努力があったからである。無論その努力に大きな光を見て、この地で人間復興・リハビリを求めた労災患者、傷痍軍人、戦災や事故などで苦しんでいる人たちの切なる思いがそれと一体化したからである。こういうリハビリを求めた人達が強い思いを抱いて、この足立山の麓に心を一つにして上り集まってきた。この地にはそういう思いで古代から現代にいたるリハビリを求めてきた人たちの魂が重なり合って色濃くにじみ潜んでいる。この山の麓にいたる坂道を我々はそういう思いを込めて、リハビリに向かう「一心真澄坂」と名付けている。この坂を上り下りしながら日本リハビリの創造に向けて努力奮闘された先人たちの熱い思いとその奮闘努力の跡を我々は真摯に受け止めていかなければなるまい。「古きをたずねて新しきを知る」ということは普遍の真理であるから。

そういうわけで我々は、北九州市の足立山麓は日本リハビリの発祥地とも言うべき所なので、いずれは、関係者の協力を得て「日本リハビリ発祥地記念館」が創設できればとリハ大を継承したころから考えてきた。折しも、平成二十三年五月九州労災病院が現在地から車で五～六分降りた旧北九州空港跡に移転、本学は労災病院の経営母体である独立行政法人労働者健康福祉機構から病院跡地の譲渡をうけ、その「リハビリテーションセンター」に本記念館を設置することとなった。これまで九州リハ大学生の実習の場であった九州労災病院の、旧「リハビリテーションセンター」（昭和六十三年設立当時は東洋一のリハビリ施設とも言われた）に設置できるようになったことは本当に天の配剤と思うしかない。ここでリハビリの実習を学んだ本学の卒業生にとっては感慨一入であろう。在校生にとっても大きな励みとなろう。

この日本リハビリの発祥地記念館では、これまで開発使用されてきた各種のリハビリ器具・九州労災病院・小倉傷痍者訓練所、九州リハ大等の施設・歴史的資料、現在大学が持っているリハビリの種々な研究開発資料等を合わせて整理保存し展示公開する。又、小倉傷痍者訓練所が持っていた「九百メートルの歩行訓練道路」「農耕菜園花畑」理学療法のための「人工温泉場」の跡地等も紹介する。記念館の中だけが記念館でないのがこの記念館の特徴である。広く一般にも公開し九州リハビリテーション大学校という名称も記念館の別称として残し教育課程の中にとり入れて行く。

記念館の設立といっても本学及び九州労災病院から引き継いだ器具、資料、施設だけでも整備するのにかなりの年月がかかると思う。「この地」に関わった人たちの各種資料も現在集まりつつある。本記念館は日本リハビリの発祥地に関わったすべての人たちの協力によって今後創り上げられていくものである。今回発足する本記念館が本学の学生・卒業生だけでなくリハビリを学ぶすべての人たち・世界の人々に貢献できるようになれることを心から祈念して設置趣旨の結びとする。

最後に、この趣旨を読まれた方にお願いしたいことは、我々の歴史的先人・先覚・先輩、そしてリハビリを求めた人達が、幾多の障害を克服し人間復興・リハビリの光をこの「足立の地で」どのように苦闘苦心しながら灯し続けてきたのか、その足跡を見つめてほしいということである。この地を踏んで人間復興の大きな生命力に出会ってほしいということである。

この坂は日本リハビリ発祥地　足立山に続く道
一心に再起を期して上る坂　リハを求めて上る山
ここは「一心真澄坂」　この坂を越えて妙見・無窮の光

（平成二十八年十一月吉日）

■記念館開設にあたって

元九州労災病院院長
元労働福祉事業団九州リハビリテーション大学校第六代（閉校時）学校長
現　本記念館名誉館長　医学博士　許斐　康熙

昭和二十四年二月、全国初の労災病院が足立山のふもとに開設されました。それが九州労災病院であります。当時北九州は産業の発展に伴った炭鉱事故や湾港事故などによる切断や脊髄損傷をはじめとした重度の労働災害が多発していました。国はこれら労働災害に対する治療施設が必要となりました。それは単に疾病や外傷を治すだけではなく、可能な限りもとの生活、職場に戻す医療を実施できる施設です。

九州労災病院が目指したリハビリテーションの基本は治療的リハから職業的リハを含めた、総合的、施設完結型リハビリテーションであり、それを実践すべき施設の整備、そして理学療法士・作業療法士のみならず医師・看護師（婦）を含めたリハビリテーション専門職の人材教育であったといえます。この理念は歴代赴任した院長をはじめ、関係者に引き継がれてきました。

こうした背景を受け、労働福祉事業団（現独立行政法人労働者健康安全機構）・九州リハビリテーション大学校が国の医療政策の一環として昭和四十一年に誕生し、多くの理学療法士・作業療法士を世に送り出しました。

九州労災病院の臨床で培われてきた技術と欧米から赴任した多くの外国人講師陣から学んだ知識をもとに、これまで日本にはなかったリハビリテーションの概念を広めた功績は大きく、わが国のリハビリテーション発祥地といっても過言ではありません。また、巣立った卒業生は全国各地の医療、あるいは教育機関で指導的立場にあり、その名は全国に轟いています。平成十六年三月行政改革によりやむなく九州リハビリテーション大学校は閉校いたしましたが、学校法人東筑紫学園に引き継がれ、現在は九州栄養福祉大学リハビリテーション学部・大学院としてより発展を続けています。

そして今、その地に日本リハビリテーション発祥地記念館・九州リハビリテーション大学校記念館が開設されました。これからの世界のリハビリテーションモデルともなるでしょう。

九州労災病院院長経験者の一人として、また九州リハビリテーション大学校閉校時の学校長として、記念館開設を心からお喜び申し上げるとともに、ご尽力いただきました学校法人東筑紫学園九州栄養福祉大学室井学長をはじめ先生方にお礼と感謝の意を表します。

（平成二十九年一月吉日）

創立80周年　学校法人　東筑紫学園　北九州市小倉北区下到津５－１－１

九州栄養福祉大学大学院　九州栄養福祉大学　東筑紫短期大学
東筑紫学園高等学校　照曜館中学校　東筑紫短期大学附属幼稚園